

令和4年1月16日

南の風 2021 ウインターカップの考察

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ウインターカップ特集号をご覧いただいた、中学校やミニバスの指導者の方とお話しする機会がありました。

その中で、「ぜひ考察も書いてほしい」という要望がありました。話題に上った中から私が感じたことを書きます。

男子のゲームを観ての感想です。男子は福岡大学附属大濠高校が、帝京長岡高校を破って28年ぶりに3回目の優勝を果たしました。帝京長岡高校は、インターハイに続いて連続の決勝進出でしたが、惜しくも初優勝は成りませんでした。最終スコアは、福岡大学附属大濠 59 対 56 帝京長岡でした。

ロースコアの決勝戦でした。お互いのディフェンスがハードワークでよく守ったことと、両チームとも連戦の疲労がありシュートの精度、セレクションに影響した感じでした。特に福大大濠は1回戦からの出場ですから6試合目の戦いでした。まず両チームのスタッツです。

福岡大附属大濠		帝京長岡
59	PTS	56
6/26 23.1%	3PT	3/28 10.7%
18/54 33.3%	2PT	19/48 39.6%
5/7 71.4%	F T	9/13 69.2%
50	T R	51
15	T O	20

まず驚くのはリバウンドの数字です。50と51は驚異的です。両チームの意識の高さを感じられます。ただ逆に言えばシュートの精度が落ちていたとも言えます。3PT、2PT 共に確率が低かったのも事実です。

またターンオーバーの多さも気になりました。帝京長岡は、福大大濠のゾーンプレスに掛かったことが何度かありました。さらに福大大濠のゾーンからマンツーマンのチェンジングディフェンスを攻めあぐんだ場面もありました。コロナ禍の中、十分に強化練習ができなかった側面があったのではないのでしょうか。

見方を変えると、ゾーン慣れしていないこともあったと思います。U15ではゾーンディフェンスは禁止の規則（この規則は、私はいいと思います）があります。ただ選手にとっては高校で初めてゾーンで守ったり攻めたりがあるわけです。慣れていない部分は少なからずありました。

ゾーン攻略の一つとして3P シュートがあります。帝京長岡は、3P が 3/28 でした。繰り返しますが、疲労もあったと思います。3P シュートは試合によって確率が左右されます。確率が悪かったことは仕方がないことです。特にシューターは打ち続けることが使命ですから。

次号では両チームの戦術面について、もう少し触れたいと思います。